古文単語 現代語訳の誤りを直す ⑤

高校／自分の訳を書いてから、訳を点検する

名前 _____

日付 _____

先に、原文の――線の古語2つの意味を短く、原文の下の「自分の訳」の2つの欄に書く（訳はまだ読まない）。
そのあと訳を読む。訳には意味の取り違えが1か所あります（誤りが無い訳も1つあります）。
訳から誤りの語句を書き抜いて「誤りの語句」の欄に、正しい訳を「正しい訳」の欄に書く。
誤りが無ければ「誤りの語句」と「原因」の欄に「なし」と書く（「正しい訳」は空ける）。
原因は「原因」の欄に記号で答える。ア＝現代語の意味のまま訳した　イ＝その語の別の意味を選んだ

1 原文　神楽こそなまめかしく面白けれ。（徒然草・第十六段）

自分の訳（1つ目）	自分の訳（2つ目）

訳　神楽こそ色っぽく趣深いものである。

誤りの語句	正しい訳	原因

2 原文　人のけしきも、夜の火影ぞよきはよく、物いひたる声も、暗くて聞きたる、用意ある、心憎し。（徒然草・第百九十一段）

自分の訳（1つ目）	自分の訳（2つ目）

訳　人の様子も、夜の灯火の光でこそよいものはよく見え、話す声も、暗がりで聞いているのは、気配りがあって、奥ゆかしい。

誤りの語句	正しい訳	原因

3 原文　月の隈なくあかからむも、はしたなくまばゆかりぬべかりけり。（更級日記）

自分の訳（1つ目）	自分の訳（2つ目）

訳　月が隅々まで明るいのも、そっけなく恥ずかしくなるに違いなかった。

誤りの語句	正しい訳	原因

4 原文　あやしの賤山がつの所作も、いひ出づれば面白く、恐ろしき猪も、臥猪の床といへばやさしくなりぬ。（徒然草・第十四段）

自分の訳（1つ目）	自分の訳（2つ目）

訳　身分の低い山里の人の仕事も、話に出して言えば趣深く、恐ろしい猪も、「臥猪の床」と言うと優しくなる。

誤りの語句	正しい訳	原因

5 原文　かしこき御蔭をば頼みきこえながら、落としめ疵を求めたまふ人は多く、わが身はか弱くものはかなきありさまにて、なかなかなるもの思ひをぞしたまふ。（源氏物語・桐壺）

自分の訳（1つ目）	自分の訳（2つ目）

訳　恐れ多いお引き立てを頼りに申し上げながら、さげすんで欠点を探しなさる人は多く、わが身は弱々しくちょっとしたありさまで、かえって物思いをなさる。

誤りの語句	正しい訳	原因

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます